

令和2年4月3日

国土交通省鉄道局 御中

静岡県

## リニア中央新幹線静岡工区に係る有識者会議について

貴局江口官房技術審議官（鉄道）が御来静時に、難波副知事に手交された令和2年3月27日付「リニア中央新幹線静岡工区に係る有識者会議について」の二つの案件、一つは委員候補の中立公正性について、もう一つは開催時期について、下記の通り回答します。

### 記

#### 1 中立公正性に疑義のある委員候補について

有識者会議については貴局と本県との間で五項目の合意をみている。その第四・五項目（委員と座長の中立・公正性）に照らし、貴局提示の委員候補の内のお一人について改めて関係者の意見を徴したところ、同氏の中立・公正性に重大な疑義があるとの意見で一致した。

第一に、当該委員候補は2012年6月から大成建設の社外監査役である。同社は、有識者会議の最大の検討事項である「中央新幹線南アルプストーンネル新設工事」「静岡県内導水路トンネル新設工事」等をJR東海から受注しており、JR東海と利害を共有する企業である。

第二に、監査役は、その中立性を云々する向きもあるが、『大成建設統合レポート2019』によれば、同社より、社外監査役4名で固定報酬年額57百万円（年間一人平均14百万余）という多額の報酬を得ている。2012年からの8年間に同氏に支給された報酬の総額は相当額にのぼるであろう。同氏はJR東海・大成建設の利害関係者である。

第三に、2016年10月26日に開催された衆議院国土交通委員会において、同氏は、3兆円の財政投融资をJR東海に対して行うことを可能とするため「独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構法の一部を改正する法律案」の審議に際し、「環境への影響をどのように考えるか」

との質問に対し、「トンネルを掘ったときの土の処分、特に、外環とかで、最近、天然由来の砒素が混じっていることがあり、処理にお金がかかること、埋立地が不足していることが問題。この問題については、実用化評価委員会では、技術開発の問題ではないとの位置付けで、対象としていなかった。実務上の問題ということで」と述べ、有識者会議が論ずべき水問題・環境問題を等閑に付した。

以上の三点に照らし、同氏は、水問題を検討する有識者会議の委員としては不適合であると考えている。貴局が考慮されている「委員ではなく別の立場」でも有識者会議への参加は認められない。

## 2 開催時期について

3月31日に締切った本県実施の公募に応じた委員候補者は12名である。これら公募候補者について目下、県の専門部会委員の意見を打診中である。貴局の意向を尊重し、候補者についての回答時期は当初予定の4月中旬を早める努力をして、来週末（4月10日（金））までに「委員候補者（案）」としてご回答申し上げます。

貴局におかれては、県の委員候補者案を、申し合わせ事項五項目にもとづいて委員の選定を改めて行っていただきたい。

なお、現行の感染症拡大の社会状況を十分勘案の上、有識者会議の開催時期を改めてご提案いただきたい。